

日比野 英子



京都橋大学学長

細川涼一前学長の任期満了に伴い、日比野英子教授が学長に就任した。任期は2019年4月1日から2022年3月31日まで。

新学長は1953年京都生まれ。1976年同志社大学文学部文化学科心理学専攻卒業、同志社大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程単位取得後退学。同大学文学部で実習助手、嘱託講師を務め、自治体や医療機関、心理相談機関などで心理臨床に従事。1999年から他大

学で専任教員を務め、2012年4月、本学健康科学部長・健康科学部心理学科教授として着任。京都橋大学心理臨床センター長、大学院健康科学研究科長などを歴任。専門分野は臨床心理学。『心理学概論 ころの理解を社会へつなげる』（ナカニシヤ出版）、「身体はだれのものか 比較史でみる装いとケア」（昭和堂）など、編著書多数。日本心理学会、日本心理臨床学会などに所属。

本学は「自立・共生・臨床の知」を教学理念とし、国際・人文・教育・社会・医療系の6学部13学科を擁する。2021年には新たに経営学部・経済学部・情報理工学部*の設置を構想中。教学理念に基づき、Societyの情報社会で活躍できる「総合力」の高い人材養成に向け、学長には、教育改革と多様化を進めるためのリーダーシップが期待される。

*設置構想中。学部学科名はいずれも仮称。計画内容は予定であり、変更することがある。

高橋 圭三



松山東雲女子大学学長

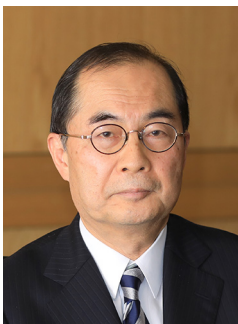
塩崎千枝子前学長の任期満了に伴い、4月1日付で高橋圭三が松山東雲女子大学の第6代学長に就任した。任期は2022年9月までの3年半である。

高橋圭三は1953年香川県生まれ。1976年に徳島大学教育学部卒業。1998年兵庫教育大学大学院学校教育研究科修了。2016年香川大学大学院医学系社会環境病態医学専攻を修了した。その間、香川大学教育学部附属養護学校などで文

部教官教諭、埼玉県自閉症・発達障害支援センター長、知的障害者入所更生施設長を経て、松山東雲女子大学に准教授として着任した。2015年教授に就任し、2016年に博士（医学）を取得した。研究分野は、発達障害のある人たちの情報処理と彼らの学習・生活支援が主である。著書は電子図書「障がい児保育」「障害児療育の相談支援」などがある。

本学は1886年に四国で最初の女学校として始まる。女子大学としては27年目を迎え、四国で唯一の女子教育に取り組む大学である。女性活躍が謳われる現代、133年前より連綿と繋がる女子教育を実践している。学生には主体的に自分自身の存在を問い、現在と将来の社会に何ができるかを探す学修を重畳して欲しい。そこで人とは違う自分らしさを見つけ、さまざまなフィールドで自分自身を褒めることのできる機会を増やして欲しいと願う。

よし かわ
ひろし
吉川 洋



立正大学学長

2019年4月1日付で立正大学学長に就任した。

吉川学長は1951年生まれ。東京大学卒業後、イェール大学大学院博士課程修了（Ph.D.）。ニューヨーク州立大学助教、東京大学大学院教授などをへて、立正大学教授。東京大学名誉教授。専門はマクロ経済学。内閣府経済財政諮問会議議員、財務省財政制度等審議会会長などを歴任。紫綬褒章受賞。著書に『転換期の日本経済』（岩波書店、読売吉野

作造賞）、『人口と日本経済』（中公新書）など。趣味は切手収集。

立正大学は、『モラリスト×エキスパート』を育む。』を教育目標に掲げ、8学部15学科を擁する総合大学。1580年開設の僧侶の養成機関・飯高檀林を淵源とし、2022年、現在の東京都港区高輪に小教院を設立した1872年から数えて開校150周年を迎える。

吉川学長は、少子高齢化が進む日本にはイノベーションが必要不可欠であり、生き・生かされるこの世界をより良くしていく原動力こそ、複雑な現代社会にあつて「正解のない問いに答えを見つめる力」を持つ人材、すなわち「信念あるモラリストにしてエキスパート」だと考える。教育とは人づくり、人づくりは国づくりであり、大学が担う役割は大きいとの思いから、その一翼を担うべく、学生一人一人の学びを支え、新たな歩みを進めていく決意だ。

とみ た
けい こ
富田 敬子



常磐大学・常磐短期大学学長

富田信穂前学長の任期満了に伴い、富田敬子氏が4月1日付で学長に就任した。任期は4年。

富田学長は、1958年茨城県水戸市生まれ。1980年東京女子大学文学部社会学科卒業。2001年米国フォーダム大学大学院にて社会学博士号を取得した。専門は社会学、人口学。

同氏は、1988年にニューヨークの国連経済社会分析局入局。パンコクの国連アジア太平洋地域経済社

会委員会勤務を経て、2009年からニューヨークの国連経済社会局統計部次長を務めた。その間、タイ国マヒドン大学人口社会研究所客員研究員、ミャンマー国国勢調査の国際諮問委員会委員などを兼任。国際人口移動、移民統計、ジェンダー問題などに関する執筆が多い。

本学は学校法人常磐大学が設置する大学であり、人間科学部、総合政策学部、看護学部の3学部および大学院1研究科を擁する。また、同法人が設置する学校には、常磐短期大学、常磐大学高等学校、智学館中等教育学校、常磐大学幼稚園がある。新学長には、「実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる」との建学の精神、および「自立・創造・真摯」の教育理念を継承すると同時に、産学官民連携を推進し、地域連携活動などを通じて、グローバルな視野を持ちつつ地域社会に貢献できる人材の育成が期待される。

金沢星稜大学



金沢星稜大学は、経済学部、人間科学部、人文学部の3学部5学科からなる地域総合大学である。JR金沢駅から3・9キロ、バスで約15分とアクセスは良好であり、兼六園やひがし茶屋街などの観光地にもほど近い場所に位置している。

経済学部では、ゼミナールを主体に地域に根ざした活動として、さまざまなフィールドワークを実施。人間科学部では、「スポーツ」「こども」それぞれの舞台の第一線で活躍する専門家から、生きた指導を直接受けることができる。人文学部国際文化

学科では、学部生全員が早期に世界各地の協定校への留学を経験。実際に異文化を肌で感じ、知見を広めて帰国する。英語力の向上はもちろん、グローバル社会を生き抜く真の国際人としての素養の修得を目指す。

オープンキャンパスや学園祭のみならず、学生が企画・運営を行うイベントも多く、学生の意欲や目標達成を強力にバックアップする体制を整えている。

「公務員」「教員」「税理士」などの難関試験突破を目指すCDP（キャリア・ディベロップメント・プログラム）や難関資格取得支援に加え、多彩なプログラムで行われる就職支援によって、大手企業への就職者も毎年多数。

特待生制度も充実しており、石川県外出身で成績優秀な学生に対し、交通費（または居住費）および食費を助成する制度もあり、真摯に勉学に励む学生をサポートしている。

篠崎 尚夫



金沢星稜大学学長

篠崎尚夫学長は、2018年4月、現職に就任。1983年立教大学経済学部卒業。学習塾経営などを経て、1994年立教大学大学院経済学研究科博士前期課程修了、2001年同博士後期課程を満期退学。同年、金沢経済大学（現金沢星稜大学）講師。その後、助教授、教授。2009年、立教大学博士（経済学）取得。篠崎学長は、「明るく、楽しく、元氣よく、そして強かに！」を信条とする。学生・教員・事務職員と共に、

小粒でもキラリと輝く「星稜」ブランドの確立に奮闘中。「北陸の絶対王者」を目指し、努力し続ける覚悟である。学長の、金沢星稜大学への熱き思いはとどまる所を知らない。

学長の専門は経済思想、日本経済思想史。「高橋は清の『公債漸減方針』表明と石橋湛山」、「昭和二年金融恐慌と信用組合—大藏官僚の信用組合批判に関連させて—」、「『日本農業の展開過程』における東畑『企業者』論の検討—シュンペーターとの比較を通して導き出されるもの—」などの論文を発表。

著書には、『東畑精一の経済思想—協同組合、企業者、そして地域—』、『松井秀喜—GODZILLA—』、『鉄道と地域の社会経済史』、『日本の経済思想1—（経済思想第9巻）—』、『東京オリンピックの社会経済史』（いずれも日本経済評論社）などがある。

原田豊巳 ノートルダム清心女子大学学長。上智大学大学院修了（修士）。ウルバノ大学大学院修了。博士（Ph.D.、聖書神学）。カトリック広島司教区司祭。'17から現職。

川久保清 共立女子大学・共立女子短期大学学長。'74東京大学医学部卒業。医学博士。'89東京大学医学部助教、'03共立女子大学家政学部教授を経て、'18から現職。

三橋秀彦 亜細亜大学国際関係学部教授。'97一橋大学大学院博士課程単位取得退学。'03から「アジア夢カレッジ」運営委員会副委員長。

佐藤文博 中央大学経済学部教授。'74早稲田大学教育学部卒業。'06-08経済学部学部長補佐、'15-18情報環境整備センター所長を歴任。専門は情報処理。主著「IT革命と人材開発」。

木本浩一 関西学院大学ハンズオン・ラーニングセンター教授。'97広島大学大学院社会科学研究所国際社会論（博士課程後期）単位取得満期退学。博士（学術）。広島女学院大学、摂南大学を経て、'16から現職。専門は地理学。

久保秀雄 京都産業大学法学部准教授。'09京都大学大学院法学研究科博士課程修了。博士（法学）。'12から現職。専門は法社会学。私立連学生委員会キャリア・就職支援分科会委員。

好宏 上智大学文学部教授。'90上智大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専門はメディア論。主著「放送メディアの現代的展開」ほか。

奥村経世 専修大学経営学部准教授。'89早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学。経営戦略論。'93から現職。主著「マネジメントの航海図」など。

高嶋孝明 豊橋技術科学大学教授、スーパーグローバル大学推進室長。'82豊橋技術科学大学情報工学修士課程修了。修士（工学）。IBMに32年間勤務し、'14から現職。

竹川清美 豊橋技術科学大学国際課・特命事務職員。グローバル経営大学院大学経営研究科修了。修士（経営学）。'16から現職、スーパーグローバル大学創成事業を担当。

八木雅史 流通科学大学附属国際交流施設学生寮寮長、経済学部教授。'88神戸大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。'88流通科学大学専任講師。'08教授。

堀内一史 麗澤大学副学長（学生・国際担当）、経済学部教授。'86南カリフォルニア大学大学院修了。M.A.（宗教学、社会倫理）。主著「アメリカと宗教」ほか。

下山裕司 南山大学国際センター事務室長。'90南山大学文学部卒。南山大学人事課長、南山大学附属小学校事務長を経て、'15から現職。

森敏生 武蔵野美術大学学長補佐（学生支援担当）、造形学部教授。'84広島大学大学院修了（教育学修士）。'06から現職。

植木 實 学校法人大阪医科大学理事。'68大阪医科大学医学研究科修了。医学博士（産婦人科学）。'00同大学附属病院院長、'05同大学学長を経て、'10から現職。

鎌田 薫 大学スポーツ協会の会長・私大連前会長。早稲田大学前総長。'75早稲田大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。民法専攻。教育再生実行会議座長。

山田健太 専修大学文学部（ジャーナリズム学科）教授。学科長。'84青山学院大学卒。専門は言論法、ジャーナリズム研究。近著『沖縄報道』見張塔からずっと』『放送法と権力』。

長野 香 立教大学総長室次長・広報課長兼立教大学院広報室長。立教大学文学部卒。'18から現職。

小林信重 東北学院大学教養学部准教授。'06早稲田大学文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（学術）。'18から現職。専門はメディア研究、文化社会学。

鈴木清巳 京都産業大学国際関係学部学部長。'03早稲田大学大学院社会科学研究科博士課程単位取得退学。専門は通商政策論。京都産業大学外国語学部学部長を経て、'19から現職。

長谷部茂 拓殖大学国際日本文化研究所教授、同創立百年史編纂室主幹。博士（安全保障）。専門は中国イスラーム、台湾史。

宇根 治 広島女学院大学学生課・国際交流センター課長。広島大学大学院社会科学研究科博士課程前期修了（マネジメント修士）。広島YMC A、筑紫女学院大学勤務を経て、現職。

押山正紀 恵泉女学園大学フェイルドスタディインストラクター。タイ国チェンマイ大学大学院教育学部修了。京都精華大学タイフェイルドワークコーディネーターを経て現職。

玉田 功 皇學館大学学生支援部国際交流担当主幹。國學院大学文学部卒。國學院大學事務局勤務を経て、'07皇學館大学入職。総務部勤務の後、'13から現職。

武下利一 佐賀県出身、敬和学園大学卒。小学1年生からバドミントンを始め、ジュニア期に幾多の全国優勝上位入賞を収め、'11インカレシングルス優勝。大学卒業後はトナミ運輸バドミントン部に所属し、全日本実業団大会・S/Jリーグ優勝に貢献。'17全日本総合バドミントン選手権シングルス優勝。日本代表選手としても活躍し、'192月末に現役を引退、同部アシスタントコーチに就任。

外川智恵 大正大学表現学部准教授。大正大学文学部卒。'92山梨放送入社。'01からフリーとして活動。NTT技術ジャーナルのトップインタビューなどを務める。

（お断り）本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

会長の動き 2019年
5月・6月

● 5月13日(月)
茂木経済再生担当大臣に私大連提言「新たな時代の就職・採用のあり方と大学教育」を手交



茂木経済再生担当大臣に
提言「新たな時代の就職・採用の
あり方と大学教育」を手交

● 5月14日(火)
第2回理事会に出席

● 5月16日(木)
全私学連合「私学振興協議会」に出席
「私学振興協議会」では、鎌田薫全私学連合代表（私大連会長）と河村建夫衆議院議員（元文部科学大臣）の両共同代表からあいさつがあり、令和2年度予算編成と税制改正に向けて、私学振興における諸課題とその対応策などについて、私

学側からは大学をはじめ各構成団体にによる要望を行い、出席議員と私学振興に向けた協議・懇談を行いました。

● 5月20日(月)

第2882回全私学連合代表者会議に出席

● 5月28日(火)

「私大連フォーラム2019」に出席

パネリストとして、財務省主計局神田眞人次長や経団連の渡邊光一郎副会長らと高等教育政策と公財政支出について議論しました。

● 6月4日(火)

第2回常務理事会、第3回理事会に出席

● 6月25日(火)

臨時理事会、第1回定時総会に出席
経団連「Society5.0時代の大学教育と採用のあり方に関するシンポジウム」に出席
産学協議会委員として、今後さらに検討すべき大学と企業の共通課題について問題提起しました。

会長ならびに副会長の決定について

鎌田薫会長（早稲田大学前総長）の会員代表者の交代に伴い、6月25日開催の臨時理事会において、会長・副会長を次の通り決定しました。

任期は、6月25日から2020年6月の定時総会終結時までです。

会長 長谷山 彰 慶應義塾塾長
副会長 村田 治 関西学院大学長
副会長 曄道 佳明 上智学院大学長



左から 村田副会長、
長谷山会長、曄道副会長

令和元年春の叙勲（私大連事業関係者）

瑞宝大綬章
白井 克彦（早稲田大学名誉教授）
瑞宝中綬章
是永 駿（立命館アジア太平洋大学名誉教授）
坂井東洋男（追手門学院大学名誉教授）
瑞宝小綬章
菅原 勉（上智大学名誉教授）

座談会 「学生実態調査の活用と課題」

特集 「留学生に対する学習面での日本語サポート」

小特集 「大学の事務業務改革」

表紙・大学点描 龍谷大学 だいがくのたから 津田塾大学

クローズアップ・インタビュー：「少路 和伸さん（画家）」

編集後記

◆多文化共生における社会のあり方が問われるいま、そのための「生き方」を身に付ける上で、混住型の国際学生寮はまさに実地の学びの場となり得るだろう。

その学びの場として、従来は留学という形の国際体験が注目されていたが、さまざまな事情によって留学することができない学生が多いため、増えている外国人留学生と共に日常生活の中で切磋琢磨するという選択がもつと注目されてもいいのではないだろうか。

両方を体験させてもらった身で振り返ると、異なる環境にとにかく自分を合わせようともがく留学よりも、自分が慣れ親しんでいる（少なくとも言葉や習慣を理解している）自国の環境で、異なる文化的背景をもつ留学生に相対するほうが、もしかするとより慎重さや思慮深さを求められることが多いのかもしれない。言葉や文化的背景が違う人と生活することは、単に楽しいだけではない経験であるが、たくさんの誤解や手間、苦労があるからこそ、自分の成長につながるのだと思う。

（広報・情報部門会議（大学時報）委員・上智大学総務局SGU事業推進室長 中山 映）

◆「UNIVASは日本版NCAA」——初めてこの言葉を聞いた時、スポーツに疎い私には、何が何だか分からない、ただのカタカナ言葉、いや、アルファベットの羅列にしか聞こえなかった。たぶん、多くの大学関係者も同様ではなかっただろうか。

本年3月、大学スポーツ協会（UNIVAS）が設立され、会員大学・団体数は230を超え、スポーツ庁からも期待の声が寄せられた。一方、UNIVASに対する各大学のスタンスは多様だ。

今号の特別インタビューでは、UNIVASの鎌田薫会長に、設立の理念や目的、大学スポーツへの思いなどを語っていただくとともに、聞き手からの率直な疑問に答えていただいた。UNIVASには、体育会に所属していない学生やスポーツを観戦したり応援する学生にもコミットしてもらい、大学スポーツの振興につなげたいとおっしゃる鎌田会長の言葉に、「なるほど、そういうことなのか」と、何かが腑に落ちた気がした。インタビューに快く応じて

くださった鎌田会長に感謝申し上げます。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・立教学院広報室長 長野 香）

◆読者の皆さんはどうだっただろうか。6月下旬、東京五輪観戦チケットの抽選結果が出た。いつともとは違う、来年の夏を想像する。

クローズアップ・インタビューは武下利一さん。全日本総合バドミントン選手権優勝をはじめ、国内外で活躍された元トップ選手だ。コーチとなつたいま、次の目標は五輪をはじめ世界で活躍する選手の育成だとおっしゃる。

たとえ本番が50%の出来であったとしても、頑張つて練習を積み上げて力を付けた50%とそうでない50%では、やはり差がある。ベースの部分でどれだけ底上げできるかと考えて練習してきた、というお話が印象的だった。

インタビューシッパがテーマの座談会では、意制づくりとともに、学生の意欲や、自ら問いを設定することの重要性が指摘された。

それぞれの記事から受け取った示唆は、学生や社会人の学びにも通じる。（日本私立大学連盟事務局 権藤 和代）

